

1月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和4年1月末現在〕

令和4年2月10日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、全てで悪化した。

業種別でも、製造業と非製造業ともに「景況」、「売上高」、「収益状況」全てで悪化した。

新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大に伴う、まん延防止等重点措置による不要不急の外出・移動の自粛等の影響を受け、幅広い業界で売上や収益等が悪化した。また、燃料や資材の価格高騰や、資材の供給の遅れが継続している。

景況DI

製造業は、前月比27.0ポイント悪化の▲38.5ポイント、非製造業は、前月比25.0ポイント悪化の▲41.7ポイント、全体では、前月比26.0ポイント悪化の▲40.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比23.1ポイント悪化の▲23.1ポイント、非製造業は、前月比25.0ポイント悪化の▲33.3ポイント、全体では、前月比24.0ポイント悪化の▲28.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比7.7ポイント悪化の▲30.8ポイント、非製造業は、前月比20.8ポイント悪化の▲45.8ポイント、全体では、前月比14.0ポイント悪化の▲38.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品製造業	学校給食パン	1月末から新型コロナウイルスの第6波の感染拡大により、県内の多くの自治体で小学校がリモート授業になり、給食が停止した。中学校の給食は通常通りである。コロナ禍に振り回される現状は変わっていない。
	清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県12月の清酒課税移出数量は、前年同月比96.8%であった。本格焼酎については、前年同月比117.1%と好調であった。大規模な忘年会はほとんどが中止となったが、少人数での飲み会や特定の蔵のスーパー・コンビニへの営業努力もあり前年並みの実績となった。しかし、コロナ禍前の2年前の12月の清酒で比べると88%の実績でコロナ禍の影響を引きずっている状況に変わりはない。清酒の輸出については、地域や企業間で温度差があるものの、コロナ禍で国内マーケットが不安定の中で輸出に注力し、令和3年11月の前年同月比輸出数量(全国ベース)は、123.9%であった。また売上高で前年同月比129.7%と好調であった。コロナ禍が落ち着いている、中国・韓国が好調で、2番目に輸出量の多いアメリカも好調に推移している。 ○県内当業界について オミクロン株の大流行で外食の環境は非常に厳しい。オミクロン株の収束を待っていたのでは座して死を待つ状態になるので、コロナ禍の中での売上確保を一層考えていく必要がある。
	納豆	1月は土産品の納豆の売上は前年よりも良くなってきたが、一般消費者向け納豆はセール等が多いので、全体的に価格が低下気味である。原料、資材、物流費等の値上げで全体としては良くない状況である。これから新型コロナウイルスのオミクロン株の感染者が多くなるのではないかと心配される。
	菓子	茨城県内で新型コロナウイルスの感染者が1,500人以上の日もあり、お客様は不要不急の外出は控えているようである。
繊維工業	絹織物	新型コロナウイルスの感染者が落ち着いてきて、宣伝会等が出来るかと思ったが、オミクロン株の感染が急激に広がり、問屋での売上が伸びない限りは、生産者への発注がままならない状況である。廃業に追い込まれる生産者が出てくると思われる。
	袋物	コロナ禍の先行き不安感により、販売商品に影響が出ており、メーカーの新商品がまだ出てこない。
製 造 業	製材	荷動きは全体的に停滞している。とくにグリーン材(乾燥していない木材)が不足状態となっている。 原木は、杉の柱材が高値となったが、その他の材については持ち合いとなった。 輸入材は、構造材・羽柄材の荷動きが、荷物が少ないながらも順調に推移した。
	県北地区プレカット	1月の加工坪数は目標の80%となった。前月同様木材の入荷は順調になったが、合板は前月同様に予定通りには入荷していない。2月は例年よりは仕事は入っているが、年間を通して比較するとやはり少ない。
	県央地区プレカット	1月は加工物件も少なく低調な状況となった。見積物件も少なく厳しい状況が続くそう。木材の入荷もまだ時間がかかる状況で、特に合板の品薄が続いている。
紙・紙加工品	段ボール	中小企業は前年同月と比べると生産数量が低下していると聞かれた。当企業でも前年同月比8%減少。12月が前年同月並みまで戻ってきたところもあったので、今月も期待したのだが、新型コロナウイルスの感染拡大の第6波の影響からか、不振である。大手段ボールメーカーは生産数量が前年同月並みか前年同月比1~2%減少で推移している。
印刷	総合印刷	売上高をはじめとした前年同月比不変は、コロナ禍にあった前年同月と同じ低水準の不変である。このような状況下において、紙インキ等の原材料の値上がりにより更に収益を圧迫している。販売価格に転嫁できない業界の悩みは大きい。
窯業・土石製品	陶磁器	令和4年になり景気の持ち直しを感じていたが、オミクロン株の爆発的な感染拡大により、経済活動にブレーキがかかったように感じる。3回目のワクチン接種と薬の普及が早急に望まれる。
鉄鋼・金属	鉄鋼	1月の受注量、設備の操業度は前年同月と同程度であった。売上も前年同月と同程度であった。業界全般の景況は、自動車部品・建築資材等の受注が月の前半は良かったが、月後半になり若干落ち込んできた。半導体や銅線などの資材不足並びに価格高騰により電機部品や機械部品の得意先も生産に支障をきたす会社が出てきている。全ての金属材料・貴金属等は高値で推移、工業薬品も値上がりしている。ガソリン・灯油等の石油製品も値上がりしている。
一般機器	生産用機械	対象7組合員(製造会社)の売上状況は、前年同月比ですべて増加となった。全体増減率は前年同月比112%であった。主要取引先からの受注は引き続き増加しており、当月も直近5年間で最大の売上を確保。組合員企業全体では、派遣社員が増加している。業績は堅調に増加している。
輸送用機器	県北地区自動車部品	前月同様に半導体の不足が生産活動に影響を及ぼしている。サプライチェーンの再構築が急務となっている。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和4年1月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	水産卸	精算所取扱高は、前年同月比4.39%増加。前年同様、商品単価が高値で推移しているため、取扱高は多少伸びたが、取扱貨物量は減少している。新型コロナウイルス（オミクロン株）の感染拡大で厳しい状況にある。ネット通販・宅配業者等での取扱が伸びている影響で、量販店（スーパー等）、仲卸業者、買受人等の販売業者が厳しい状況である。
	セメント卸	袋セメントの出荷袋数は前年同月比約11%の減少。土木建築工事の減少によるものと思われる。
非 製 造 業	県北地区共同店舗	売上は前年同月比119%、客数は同115%で、前年同月の売上を確保した店舗は69%であった。1月は良かったが、今後の感染拡大が懸念される。
	県央地区共同店舗	館全体の既存店と新店の売上(客数)は前年同月比105%(97%)となり、前年よりも良かった。主要部門では前年同月比で食品95%(95%)、飲食110%(108%)、ファッション110%(108%)となった。正月3が日は前年同日比で116%(108%)と大きく上回ったが、新型コロナウイルス感染者増加及びまん延防止等重点措置が始まってから、一気に売上客数共に低調となった。1/7(金)より飲食店2店舗がオープンした。
	県南地区共同店舗	当月上旬は2年ぶりにお正月イベント、催事の開催などで盛り上げることができた。新型コロナウイルスの感染拡大による影響なのか、中旬以降は急激に客足も減り、購買にも影響が出てきている。下旬にかけても、厳しい状況が続き、特に対面サービスの業種が厳しい。売上は前年同月比で、全体98.2%、衣料91.3%、文化品161.8%、食料品91.2%、飲食100.1%、サービス99.1%であった。前々年同月比では、全体81.6%、衣料71.8%、文化品80.5%、食料品72.6%、飲食96.4%、サービス80.4%であった。
	家電	新年の行事も全てコロナ禍の状況にあって中止となり、寂しいスタートとなった。販売面も厳しい推移である。尚、2022年の家電成長性がある商品ベスト10の主な商品は、スティッククリーナー、4K有機ELテレビ、ドラム洗濯乾燥機、大型冷蔵庫、エコキュート等である。2月から各店戦略を練って、1月の不振を巻き返したい。
	燃料小売	原油価格は1/21にWTI(原油価格の代表的な指標)で1バレルが87ドル台と7年ぶりの水準まで上昇、国内においても1/24調査のレギュラーガソリン全国平均価格が170円を超えた。これにより、国は「燃料油価格激変緩和対策事業」を発動したが、小売価格は原油価格上昇分の仕入価格分を全て転嫁できないうちで、一般消費者からは小売価格が安くなると勘違いされかねない。新型コロナウイルスの感染者が急拡大し、人流・物流が動きにくい状況の中で、今後も原油価格は上昇の見通しがあり、消費者の買い控えによる経営悪化が予想される。
	中古自動車	販売価格は前年同月比で115.2%であったが、販売台数が同79.7%であった。売上高は同91.8%であった。
	食料品	食品流通業により、組合員はコロナ禍において食のライフラインを担っている。1月においては新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、中旬以降に来店客の減少が多く見られるようになり、売上が前年同月割れをした。特に、生鮮食品・チルド商品・菓子の前年同月割れが目立った。そうした中で、総菜商品や冷凍食品は前年同月と同じ売上をキープした。現在も新型コロナウイルスの感染者が減る傾向にないため、自宅でストックできる商品が伸びると思われるので、その部門の強化を行う。今後も、来店客に安心・安全な店であるように感染対策は万全に行っていく。
	野菜・果実	1月の取扱高は野菜果実合計で前年同月比94.3%となった。年明けの強烈な寒波から始まり厳しい寒さとなった1月は、生育停滞も一部では見られたが、ほとんどの品目は多く出回り、全体で見ると安値で推移した。また、新型コロナウイルスの流行の第6波による外食産業への納めの需要低下による影響もあると思われる。
	商店街	筑西 新型コロナウイルスのオミクロン株による感染者の急激な増加に伴い、予約キャンセル増加と来店客減少に繋がっている。1月2月の会議・宴会の予約が90%キャンセルになり、レストランの来店客数も12月と比べると85%減少しているところもある。
	サービス業	自動車整備
ホテル・旅館		先月に続き1月の利用者も県外からのお客様が5割以上を占めており、臨海の日の出や山間の氷瀑等が人気が高い。しかしながら、オミクロン株の急速な感染拡大による感染者の急増で、宿泊補助事業(いば旅あんしん割)の停止を余儀なくされ、通常の予約といば旅あんしん割の予約のキャンセル数を合わせると、組合員全体でこれまでにないキャンセル件数・キャンセル総額となっている。感染者数が増え続けている中では、打つ手も乏しく、2月以降は更に厳しい状況が予想される。
建設業	総合	技術者・職人不足は相変わらず深刻な上に、海外で生産されている製品全般の資材不足も重なり、完成工期が確定できない状況が生じている。また、新型コロナウイルスの感染者及び濃厚接触者のために出勤できない社員も発生している。建設業はテレワーク業務ができないため、混乱はさらに広がる事が懸念されている。
	電気工事	入荷しない電材の材料が増え、現場に支障が出ている。
	型枠工事	今月の業況も前年と変わりはない。1月は前年に受注した土木や建築の物件を継続して施工中である。年明けは、民間からの見積依頼もあった。しかしながら、ウッドショックやスチールショックによる、資材の高騰と品不足が深刻な状況である。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和4年1月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非製造業	運輸業	当月の組合員数は117名、車両台数は149台で前月と比較して1名の減少、1台の減少となった。また、運送売上高については、前年同月比115.2%と増加であった。全国連合会での当月の組合員数は7,173名、車両台数8,509台で前月と比較して42名減少、47台減少であった。
	一軽貨物運送	主要顧客の動向の影響で、出荷物量は横這いとなるも、燃料価格の高騰に伴い、運賃を期間限定であるが一部改定(値上げ)させて頂いた。しかし、燃料価格は更に高騰しており、収益も益々厳しい状況が続いている。
	県北地区一般貨物	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食回数増の要望
	清酒	まん延防止等重点措置の発令により自治体から外食での酒の提供の制限がかかっている。飲食店だけでなく、飲食店への酒の供給側に対しても補助金の交付をお願いしたい。
小売業	県央地区共同店舗	店舗の退店により収入が減少している。協同組合や店舗が活用できる補助金や助成金、イベントで活用できる補助金などの情報を教えて欲しい。
	燃料小売	・原油価格上昇を抑える施策の対応と、その事業に対する消費者への周知徹底 ・揮発油税に課税している二重課税の廃止
建設業	総合	公共工事の資材が調達できないために年度内完成が出来なくなる工事に対して、工期延長を望む。特に問題なのは、補助金の交付限度が年度内の工事は年度内の工事完成を求められるので、特例的な措置で工期の延長をして欲しい。
	型枠工事	業界を挙げて、人材確保に向けた取組をしている。中央会や行政庁の皆様に、建設業の大切さや魅力を発信していただき、求職者・特に若年層の人材確保に向けた取組を推進したいと考えているので、よろしく願いしたい。

月次景況調査 1月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	1月	12月	前月比	1月	12月	前月比	1月	12月	前月比
景 況	▲ 40.0	▲ 14.0	▲ 26.0	▲ 38.5	▲ 11.5	▲ 27.0	▲ 41.7	▲ 16.7	▲ 25.0
売 上 高	▲ 28.0	▲ 4.0	▲ 24.0	▲ 23.1	0.0	▲ 23.1	▲ 33.3	▲ 8.3	▲ 25.0
収 益 状 況	▲ 38.0	▲ 24.0	▲ 14.0	▲ 30.8	▲ 23.1	▲ 7.7	▲ 45.8	▲ 25.0	▲ 20.8
販 売 価 格	2.0	4.0	▲ 2.0	▲ 3.8	3.8	▲ 7.6	8.3	4.2	4.1
取 引 条 件	▲ 22.0	▲ 16.0	▲ 6.0	▲ 19.2	▲ 19.2	0.0	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 12.5

中小企業月次景況調査(令和4年1月)DI値(前年同月比)

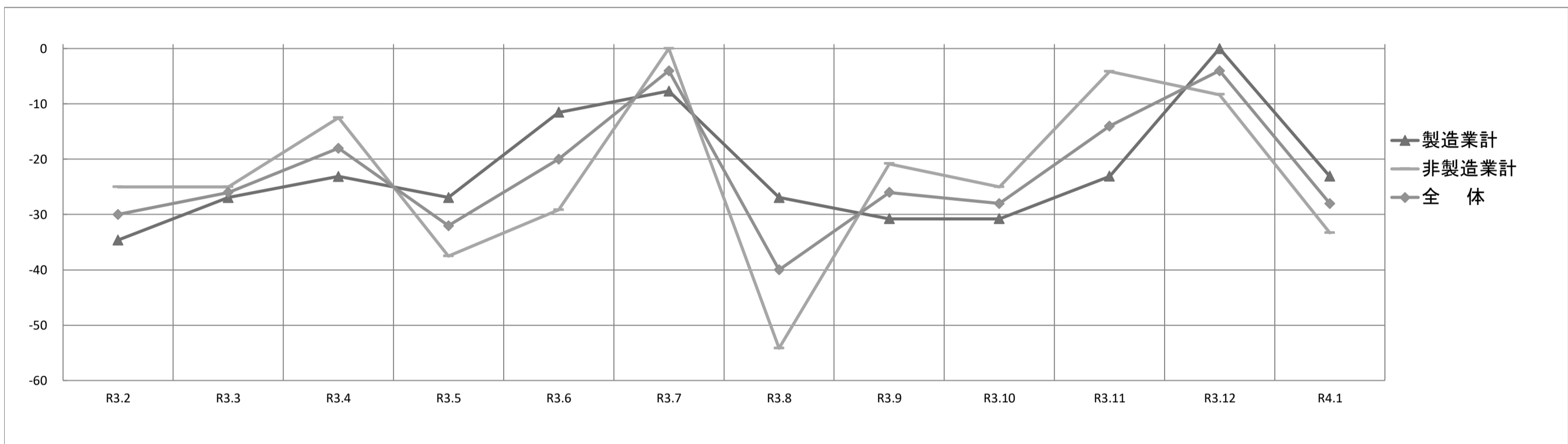
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況													
	DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)														
		増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数							
製造業	食料品	△ 66.7	0	2	4	6	16.7	1	5	0	6	0.0	1	4	1	6	0.0	0	6	0	6	△ 50.0	0	3	3	6	△ 50.0	0	3	3	6	△ 50.0	0	3	3	6	△ 50.0	0	3	3	6	△ 83.3	0	1	5	6
	繊維工業	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3					
	木材・木製品	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	紙・紙加工品	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	化学・ゴム	△ 100.0	0	0	1	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1
	窯業・土石製品	0.0	1	3	1	5	0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5
	鉄鋼・金属	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	一般機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1
	電気機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3
製造業計	△ 23.1	4	12	10	26	3.8	3	21	2	26	△ 3.8	2	21	3	26	△ 19.2	0	21	5	26	△ 30.8	2	14	10	26	△ 30.8	0	18	8	26	△ 19.2	2	17	7	26	△ 11.5	1	21	4	26	△ 38.5	1	14	11	26	
非製造業	卸売業	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	1	1	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	X	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3				
	小売業 (商店街含む)	△ 50.0	2	2	8	12	8.3	1	11	0	12	16.7	3	8	1	12	△ 41.7	0	7	5	12	△ 58.3	0	5	7	12	△ 41.7	0	7	5	12		△ 8.3	0	11	1	12	△ 50.0	0	6	6	12				
	サービス業	△ 50.0	0	1	1	2	X	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1		2	△ 100.0	0	0	2	2	△ 50.0	0	1	1	2			
	建設業	△ 20.0	1	2	2	5		0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	1	3	1	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0		5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5			
	運輸業	50.0	1	1	0	2		50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1		2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2			
	非製造業計	△ 33.3	4	8	12	24		0.0	1	13	1	15	8.3	5	16	3	24	△ 25.0	0	18	6	24	△ 45.8	1	11	12	24	△ 33.3	0	16	8		24	△ 12.5	0	21	3	24	△ 41.7	0	14	10	24			
全体	△ 28.0	8	20	22	50	2.4	4	34	3	41	2.0	7	37	6	50	△ 22.0	0	39	11	50	△ 38.0	3	25	22	50	△ 32.0	0	34	16	50	△ 19.2	2	17	7	26	△ 12.0	1	42	7	50	△ 40.0	1	28	21	50	

D I 値推移表 (R3.2月 ~ R4.1月期)

《売上高の推移》

前年同月比	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 15.0	5.0	10.0	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0	10.0	▲ 10.0
製造業計	▲ 34.6	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 26.9	▲ 11.5	▲ 7.7	▲ 26.9	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 23.1	0.0	▲ 23.1
卸売業	0.0	▲ 50.0	100.0	33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 36.4	9.1	▲ 16.7	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 8.3	▲ 66.7	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 50.0
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0
建設業	20.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	▲ 20.0
運輸業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
非製造業計	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 29.2	0.0	▲ 54.2	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 4.2	▲ 8.3	▲ 33.3
全体	▲ 30.0	▲ 26.0	▲ 18.0	▲ 32.0	▲ 20.0	▲ 4.0	▲ 40.0	▲ 26.0	▲ 28.0	▲ 14.0	▲ 4.0	▲ 28.0

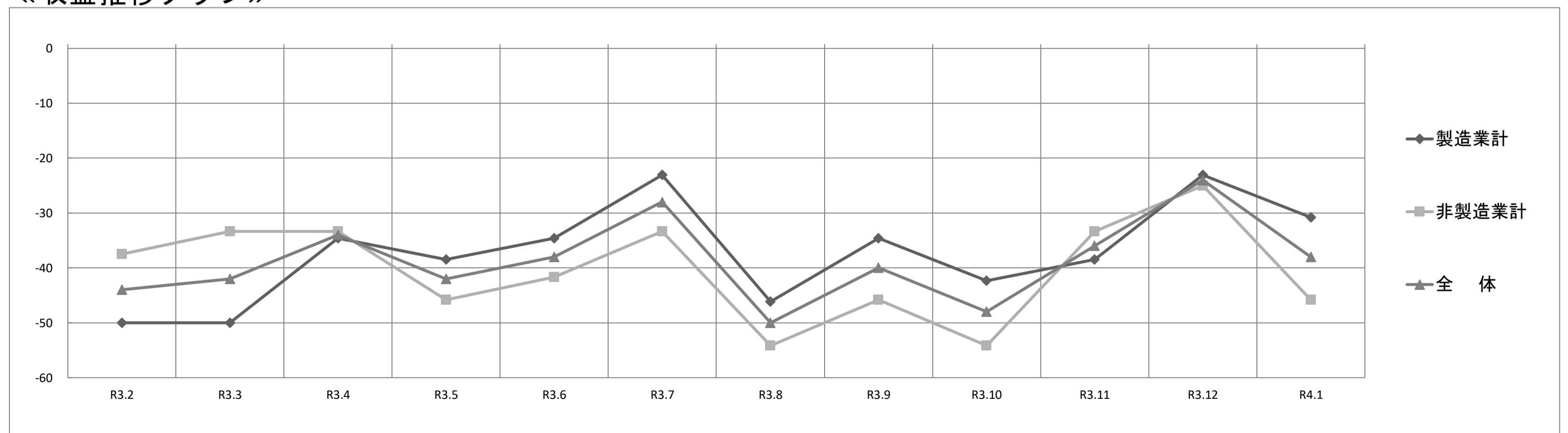
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 45.0	▲ 50.0	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 25.0
製造業計	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 34.6	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 46.2	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 23.1	▲ 30.8
卸売業	25.0	▲ 25.0	33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	0.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 63.6	▲ 36.4	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 58.3
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0
建設業	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 37.5	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 45.8	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 54.2	▲ 45.8	▲ 54.2	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 45.8
全体	▲ 44.0	▲ 42.0	▲ 34.0	▲ 42.0	▲ 38.0	▲ 28.0	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 36.0	▲ 24.0	▲ 38.0

《収益推移グラフ》

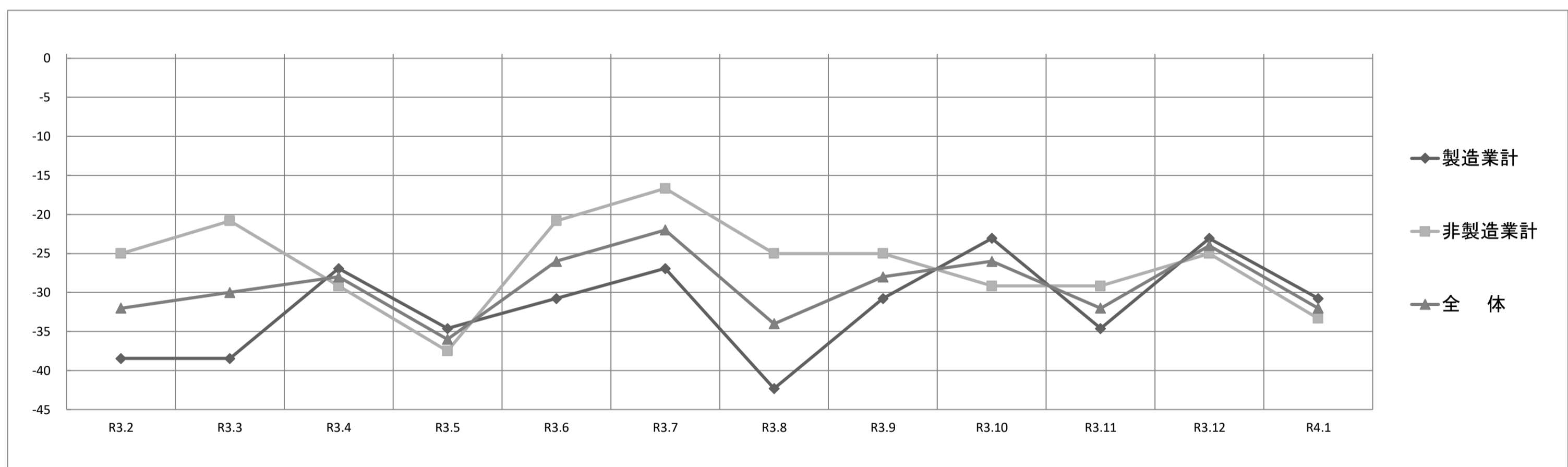


D I 値推移表 (R3.2月 ~ R4.1月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 50.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 25.0
製造業計	▲ 38.5	▲ 38.5	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 23.1	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 30.8
卸売業	25.0	▲ 25.0	33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 45.5	▲ 18.2	▲ 41.7	▲ 58.3	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 41.7
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0
建設業	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 29.2	▲ 37.5	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 33.3
全体	▲ 32.0	▲ 30.0	▲ 28.0	▲ 36.0	▲ 26.0	▲ 22.0	▲ 34.0	▲ 28.0	▲ 26.0	▲ 32.0	▲ 24.0	▲ 32.0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 83.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 25.0
製造業計	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 34.6	▲ 11.5	▲ 38.5
卸売業	50.0	▲ 25.0	0.0	▲ 33.3	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 45.5	▲ 18.2	▲ 25.0	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 16.7	▲ 50.0
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0
建設業	0.0	▲ 40.0	▲ 40.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0
運輸業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 37.5	▲ 45.8	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 41.7
全体	▲ 32.0	▲ 34.0	▲ 32.0	▲ 38.0	▲ 40.0	▲ 34.0	▲ 44.0	▲ 38.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 14.0	▲ 40.0

《景況推移グラフ》

